

アカイカタケ

三宅飛鳥・池ヶ谷のり子

落ちた花にもイソギンチャクにも見える奇怪な造形、ハエを誘うための強烈な糞臭、キノコ好きでもあまり見ることができないという希少性、ふじミュ－自然観察路で見られた生物の中でも、アカイカタケはとりわけ強い印象を与えるキノコです。

スッポンタケ目スッポンタケ科に属するアカイカタケは、熱帯、亜熱帯系の腐生性キノコで、県内では静岡市以外に伊豆半島、西部地域の里山で確認されています。

幼菌は白い卵形で、折りたたんでいた赤い腕を広げます。有性胞子がつくられるのは、皿中央にのっているグレバとよばれる粘液状の部分です。他のスッポンタケ科の種同様、グレバは悪臭を放ってハエを誘引し、胞子を舐めさせて、繁殖地を広げていきます。実際、枯れ葉の下にあったアカイカタケから枯れ葉を取って空気に晒したところ、すぐにどこからともなく数十匹のハエが来てグレバに群がりました。

梅雨時に見られるキノコで、1日もしない間に「咲いて」閉じます。あとは形が崩れ2、3日で消えます。ミュージアムがある日本平での報告例はあるものの、地表に出る時間が少ないこともあり遭遇は難しいようです。出現時期を見逃さないという点で、気軽に確認できる観察路にこのキノコが生える環境があったのは幸運でした。

まず2018年6月に観察路で3本見つけました。2019年6月は観察路ではなく運動場沿いの植え込みに4本を確認（植え込みには竹チップが撒いてありました）。翌年は確認できませんでしたが、なぜか2021年は6月を通して計「35本」も観察路で発見できました。発見したのは周囲に伐採した広葉樹や竹がある場所です。竹チップや伐採跡など、発生の裏には人為的な影響も感じさせます。

希少とされる種、その立て続けの発見に最初は驚きましたが、そのうち慣れてきて、気兼ねなく標本にすることができました。来年また生えるとは限らないですね。幼菌も見つけたので、持ち帰ってタイムラプス撮影もしています（写真右下、QRコードより動画が見れます）。粘液が全盛の時に鼻を近づけるのはおすすめしません。



タイムラプス動画→

アカイカタケ：右下のQRコードを読みとると、アカイカタケの成長する様子が、動画で見られます。